

豊 かな自然と築城400年以上の
歴史情緒あふれる街・弘前

「お城と桜、りんご」に象徴される弘前市は、岩木山や生産量日本一のりんごに代表される豊かな自然と、城下町として発展した数々の歴史遺産、弘前ねぶたまつりや津軽三味線といった伝統文化が息づいた街です。医療分野においては、弘前市を中心として3市3町2村で約30万人の規模となる津軽地域保健医療圏を形成しています。



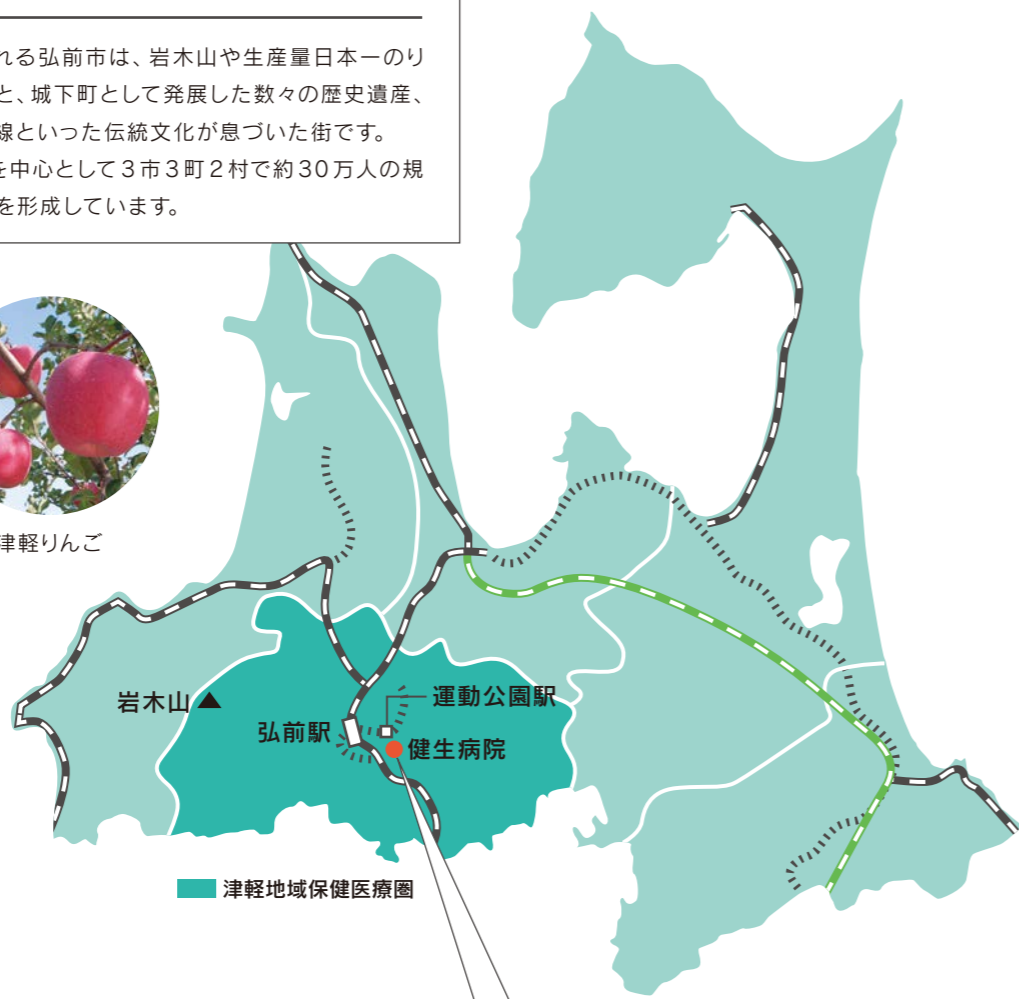
弘前城



津軽りんご



弘前ねぶた



健 生病院までのアクセス

弘南鉄道弘南線・
運動公園前駅下車、徒歩7分

弘南バス城東安原線(アルカディア経由)・
健生病院前下車

- JR弘前駅より10分(約2km)
- 東北自動車道・大鶴弘前ICから弘前方面へ車で10分(約6km)
- 東北自動車道・黒石ICから弘前方面へ車で20分

P 駐車場
250台

詳しいアクセスは
こちらから



津軽保健生活協同組合
健生病院

〒036-8511 青森県弘前市扇町2丁目2-2

TEL: 0172-55-7717 FAX: 0172-55-7743

E-mail: kensei-igakusei@kensei-hp.com HP: <http://www.kensei-hp.jp/>

担当: 医局医学生課 研修医室

お問い合わせ・お申し込みはこちらから



津軽保健生活協同組合 健生病院

KENSEI HOSPITAL

Junior Resident

ERで「断らない救急」の実践と屋根瓦式研修で
個性を生かしながら幅広い診療能力が身につく

地域に根差して 幅広く活躍できる 医師を目指す

健生病院の特別プログラム



「総合的な臨床能力を有する研修医」を目指す健生病院の特別プログラム

津軽地域で最大の民間病院である健生病院は2次救急で中心的な役割を果たしており、軽症から重症までさまざまな患者が訪れることからプライマリな研修を行うには最適の環境と考えます。活発な多職種連携に加えて、医療生協の良さもあります。研修も屋根互式かつステップアップ方式を取り入れているので、個人の特性に合わせながらも必要な実力を効果的につけることができるようになっています。

研修理念

患者・住民本位の立場に立ち、地域住民の医療要求に総合的に応えられる力量を持ち、医療の公共性と基本的人権を守る医師の養成を目指す。

研修目標

- 1 プライマリーヘルスケアを担い得るためにすべての臨床医に必要な基本的知識、技術、態度を修得すること
- 2 良好な医師-患者関係を構築するためのコミュニケーション能力を修得すること
- 3 チーム医療のリーダーとして成長すること
- 4 医療を患者・地域住民との「共同の営み」としてとらえ、疾病を生活や労働との関係でとらえることができること
- 5 健康で住みよい地域づくりの視点を身につけること
- 6 社会常識、集団性、人間性を身につけること

病院概要

地域住民と生協組合員の「いのちと健康」を守り、事業の継続・発展によって、安心して住み続けられる街づくりに貢献する。

名称 津軽保健生活協同組合 健生病院
 住所 〒036-8511 青森県弘前市扇町2丁目2-2
 病床数 282床
 診療科目 集中治療科・総合診療科・内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・外科・整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・精神科・産婦人科・小児科・アレルギー科・麻酔科・臨床病理科・放射線科・救急科・緩和ケア科
 施設認定 救急告示病院
 日本医療機能評価機構認定病院 (3rdG:Ver.1.0)
 厚生労働省認定医師臨床研修指定病院
 卒後臨床研修評価機構認定病院 (JCEP)
 HPH (ヘルス・プロモージング・ホスピタル)
 世界保健機構(WHO)・ユニセフ
 「赤ちゃんに優しい病院 (BFH) 認定施設」

研修プログラムローテート例

1年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修プログラム	総合診療科・内科 (5.5カ月) ※導入研修2週間含む					小児科 (1.5カ月)	整形外科 (1.5カ月)	外科 (1.5カ月)	ER救急 (2カ月)			
共通プログラム	ER副当直 (1~2回/週)											
2年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修プログラム	総合診療科・内科 (4カ月)				精神科 (1カ月)	産婦人科 (1カ月)	リハビリ科 (1カ月)	診療所 (1.5カ月)	選択 (3.5カ月)			
共通プログラム	ER当直 (1~2回/週)											

健生病院式 5大研修特徴

1 あらゆる疾患への初期対応力を県内有数のERでしっかり身につける

当院の救急はER専属指導医が常駐しており、津軽地域保健医療圏で最多となる救急車搬入数は約2,000件/年、救急外来受診患者数は約20,000人/年、緊急入院数は約2,000件/年と豊富な経験が可能です。救急症例や手技を経験する機会が多数あり、主訴に対して必要な初期対応・治療を学びます。当直研修はステップアップ方式で独り立ちの前には「OSCE」を実施して到達度と課題を確認するので、突然「明日から独りで当直!」と投げ出されることはありません。当直も常に2人以上の体制ですのでいつでも相談でき安心です。



2 世界保健機構(WHO)がすすめるHPHに加盟

HPH (ヘルス・プロモージング・ホスピタル) はWHOがすすめる「全ての人に健康を」の戦略を実現するための国際的なネットワークです。健生病院は東北6県の臨床研修病院では唯一の加盟病院であり、治療だけでなく健康を支援する環境づくり、地域活動を医療生協の利点を生かして行うことで地域の健康増進につながっています。超高齢化と健康格差の拡大という大きな健康問題に直面している日本社会においても、包括的な医療の質の向上に貢献できるヘルスプロモーション活動を病院として取り組んでいます。



3 第三者から評価される研修プログラム 卒後臨床評価機構 (JCEP) 認定病院

当院では長年、多くの研修医を受け入れており、研修の質向上の取り組みを継続的に行っています。その証として青森県内初、東北6県では2番目に「NPO法人卒後臨床研修評価機構」による第三者評価を受審・認定を取得しました。「①地域医療の実践を理念として全職員で取り組んでいる②研修プログラム、指導医・事務担当者のサポート体制が手厚く充実している③研修医の満足度」などが高く評価されています。



4 地域をまるごと活かし目標に全力でコミットするスーパーローテート

「誰もが、どこでも困らない力を」というように当院の研修はプライマリケアに重点をおいたスーパーローテートになっています。「地域の中で」を意識しており、診療所研修や単科病院での精神科研修、1年目からの内科外来研修などの特徴があります。全ての科で意思統一がされた目標は数珠繋ぎのようになっており、たとえば将来的に専門外になったとしてもあらゆる患者に確実な初期対応ができるように一貫性をもった内容になっています。



5 しっかりとした教育体制と学びの保障

各科指導医、多職種連携による「CT読影学習会」や「プライマリレクチャー」を実施しており、医師としての基本的な症例や手技の経験、診察力や判断力を身につけることができます。基本的手技は実施回数をカウントし、一定程度経験した後に指導医や看護師に評価してもらうことで全員が必要なレベルに到達します。また、毎週火曜日午前の「研修医学学習会」や毎月1回土曜日の「研修医会」では症例発表や意見交換、研修の振り返りを行うことで絆を深めながら個々の問題を集団として共有し、問題解決しています。



研修医の声

Voice of Resident



「退院後の先も見据えた医療の実際」

松本 拓真 医師

初期研修医1年目
出身：弘前大学

Dr. MATSUMOTO

健生病院には社会的背景が困難な方が受診されることも少なくありません。そんな患者様は、病気を治しても健康な生活を得られることは難しいです。当院では多職種が連携して病気の治療だけでなく、退院後の住居や介護保険の調整といった治療後の生活へも介入し、患者様が健康な生活を継続していけるような医療を提供しています。私たちと一緒に学びながらさまざまな困難を抱えた患者様を助けましょう！

「仲間と共に目標にしっかり向き合える環境」

飯田 和貴 医師

初期研修医2年目
出身：岩手医科大学

Dr. IIDA

私たちの初期研修は、明確な目標が設定されていることが大きな特徴だと思います。診療所を任せられる、当直を一人で適切に診ることができる、といったような目標に向かって、病院のスタッフ全体が研修医を育ててくれます。学習の時間も保証されており、症例を取り合うのではなく、共有しあうことでより学びを深めることができ、研修医同士で成長しあうことができます。

健生病院式研修はココが他院と違う！

初期研修到達目標

あらゆる疾患で押し寄せる患者に適切な対応ができる

- ① 健生病院でER当直ができるようになる
- ② 診療所の副所長を担えること

しっかりとした屋根瓦式研修を実施しており、1年目は2年目に、2年目は上級医や周りのスタッフに気兼ねなく相談できる環境があります。総合医局のため、科の垣根はありません。他科へのコンサルトもしやすく、研修医も気軽に相談しています。



当院の指導医は後進育成に熱心です。研修評価はEPOCの他、各科ローテート後に指導医・スタッフが研修総括レポートを書きます。研修医を一人ひとり丁寧に見ているからこそ書くことができますし、振り返り面談等でのフォローアップも大事にしています。



医療生協ならではの取り組みとしては組合員で構成される「健康チェック」や「医療講話会」に講師として参加し、地域における健康増進や予防医療の実践を学びます。これらの地域住民との交流を通じ、医療ニーズを知る機会を得ることができます。



和気あいあいとした雰囲気のある医局では、年齢や性別に関係なく仲が良いです。季節に応じたイベントが多数あり、花見やビアガーデン、芋煮会、忘新年会など、各診療科を越えた交流も魅力です。

指導医の声

Voice of Supervisory Doctor

「地域の中で21世紀に必要な医師を育てます」

健生病院の研修では診療所研修など地域に出て行く場面があり、指導医だけでなく、患者・家族、同僚、多職種との関わりの中で、あなたの個性を生かしながら成長できます。2年間で「基本的な診療能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「病気を生活や労働との関係で捉える視点」「地域づくりの視点」といった必要な力を身につけていきます。



竹内 一仁 医師

プログラム責任者
副院長／内科科長

Dr. TAKEUCHI

太田 正文 医師

ER科長

Dr. OHTA

「どんな患者も受け入れるERで一緒に考え、学び、がんばりましょう」

歩いて受診する患者が軽症とは限りません。歩いて受診する患者の約0.5%に致死性の疾患が隠れています。重症患者を見逃さず根本治療に繋ぐこと、軽症の方に最善の治療を提供することが大切です。将来どの科に進もうとも、医師であれば救急患者からは逃れられません。だからこそ初期研修の2年間で土台となる必要な力を健生病院で一緒につけましょう。

「無差別・平等・公正」を共に

健生病院の医療活動の一番の基本となるスタンスを示す言葉です。私たちは「地域の人びとの健康な生活に貢献できる医師を養成したい」という想いを込めて、初期研修プログラムを作成しています。健生病院はWHOが進めるヘルスプロモーション戦略の実現を目指す国際HPHネットワークに加盟しています。地域の人びとの健康づくりを国際的な視点で捉えながら、地域に根ざした臨床医としての確かな歩みを、私たちと共にスタートしませんか。「誰も置き去りにしない(No one will be left behind)」は国連が掲げるSDGの標語です。私たちはもちろん「研修医」も置き去りにしません。



伊藤 真弘 医師

院長／外科

Dr. ITO

女性医師に優しい病院

「安心して結婚・出産・子育てができる」 当たり前だけど大事なこと

当院は研修医も常勤職員・正規雇用であり福利厚生も意識しています。また、所属医師の約3分の1が女性で生き生きと働いています。産休・育休制度がしっかりしており、取得率は100%。復帰後も病児保育制度があるので家庭と仕事の両立がしやすい環境があります。一番多く子どもを産んでいる方では4人!! 病院を挙げて医師一人ひとりをバックアップしています。



「ライフワークバランスがとれた
やりがいある働き方ができます」

兼田 杏理 医師

外科

Dr. KANETA



私も含めた健生病院に在籍する女性医師15名のうち、半数以上が育児と診療・研修を両立しています。産休・育休をしっかり取ることができ、それぞれのライフワークバランスを考慮した、やりがいをもった診療・研修ができます。もちろん、女性だけでなく男性医師も同様であり、お互いの状況に配慮し助け合っています。最近では院内病児保育利用が可能となり、子供の急な発熱にも対応してくれるので大変助かっています。

後期研修について

2018年4月より開始の新専門医制度では新設された総合診療科で2つ、精神科で1つの基幹プログラムを用意してあります。その他の領域においては弘前大学の連携施設となっています。特に精神科は東北6県では民間で唯一*となる基幹プログラムであり、精神科専門医として精神医療一般を担える医師を養成することを目標としています。多岐にわたる連携施設はそれぞれの特色を持ち、対応する疾患の傾向、重症度、年齢層など患者側の要素のほか、各施設の持つ機能、伝統、立地条件なども異なり、最終的にはいずれの場でも柔軟に最適な診療を行えるだけの総合的な能力を身につけます。

どの専門領域に進んだとしても医療チームのパフォーマンスを上げるために、そして病院の外側で人々が生活している地域にきちんと目を向けられるような力を身につけてほしいと当院は考えています。

【新専門医制度基幹プログラム】
・青森民医連総合診療プログラム
・CFMD東北総合診療プログラム
・藤代健生病院精神科プログラム

※大学法人、国立、市立・県立等の自治体、公益財団法人等を除いた設置主体

「やりがいがある地域だからこそ
“人”と向き合う大切さを学べる」

大高 由美 医師

総合診療科

Dr. OHTAKA



家庭医(総合診療専門医)の後期研修では患者さんをひとりの「人」として捉え、疾患だけではなく、その方にとって病とは何か、またその方の社会背景や生き方、価値観などについて総合的に考え、日々診療を行っています。そして、研修プログラムはそれぞれの医師の個性を生かし、多様な柔軟なローテートを組んでいけるように工夫されています。

2017年に新築移転した 健生病院

2017年10月に弘前市扇町オフィスアルカディアへの新築移転し、以前と比較すると、救急外来が1.3倍、手術室2.5倍、健診科1.5倍、重症患者の治療を行うハイケアユニットも4床から8床に拡大しました。さらに、緩和ケア病棟と地域包括ケア病棟が新設されました。今後、力を入れていく分野としては救急と在宅医療を支える総合診療部門、消化器内科と外科系、母子医療、がん医療、リハビリ、そして検診を中心とした保健予防活動です。これらを病院の総力をもって実践し、安心して住み続けられる街づくりに貢献していきます。



募集要項

募集定員	9名
募集資格	本年度3月医学部卒業見込者、医師国家試験合格者(見込み)
試験日程	4~9月末まで
応募書類	「健生病院医師採用申込書」(履歴書兼採用試験申込書)、健康診断書、卒業見込み証明書、成績証明書
選考方法	実習、筆記試験、面接、書類審査
応募締切	マッチング最終登録1週間前まで

処遇

身分	常勤職員、各種社会保険完備
給与	1年次382,000円/月(税込) 2年時402,000円/月(税込) ※賞与(年2回)、住宅手当(世帯主50,000円 非世帯主25,000円/月)、家族手当、通勤手当、日当直手当、薪炭手当、残業手当(2年次より)
休暇	有給休暇12日/年、お盆・年末年始休暇、その他特別休暇
備考	2学会までの年会費、年度2回までの出張(学会、セミナー等)を当院が負担

病院見学について

病院見学、病院実習を随時受け付けています。学年・希望に応じ、個性を重視した実習を提供いたします。その他、ご希望に沿った実習を提供します。(交通費、宿泊費、昼食基本無料※一部例外あり)

おすすめ病院見学例 1日コース



午前 8:30~

- 各診療科回診参加
- 各診療科外来見学



午後 12:30~

- 手術見学
- 訪問診療同行
- 各種健診・検診見学
- 各診療科病棟研修見学



アフター 17:00~

- 各種学会への参加
- 研修医や医師との懇親会
- 希望者には病院近隣や弘前の街案内